

学校法人富澤学園
東北文教大学短期大学部
機関別評価結果

令和4年3月11日
一般財団法人大学・短期大学基準協会

東北文教大学短期大学部の概要

設置者 学校法人 富澤学園
理事長 結城 章夫
学 長 須賀 一好
A L O 曾根 章友
開設年月日 昭和 41 年 4 月 1 日
所在地 山形県山形市片谷地字谷地 515

<令和 3 年 5 月 1 日現在>

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
子ども学科		100
現代福祉学科		60
	合計	160

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

なし

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

東北文教大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、令和4年3月11日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

令和2年7月9日付で東北文教大学短期大学部からの申請を受け、本協会は認証評価を行ったところであるが、評価の結果、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神を「敬・愛・信」と定め、学内の各所に掲示するとともに、創設者富澤カネ氏の著作『思い出のままに』を配布し、学生・教職員に周知している。

学生は、正課の授業において地域と連携した課題に取り組むだけでなく、ボランティア等を通じて地域・社会から学ぶとともに地域・社会に貢献している。教員は、地域からの要請に応じて各種外部委員会の委員を務めるなど積極的に地域・社会に貢献している。

教育目的・目標は、建学の精神に基づいて定められており、学則に明示している。各学科の人材養成に関する目的は、各学科規程において明示している。学習成果は、卒業認定・学位授与の方針において示しており、学生便覧やシラバス、ウェブサイトで学内外に表明している。三つの方針は、一体的に策定しており、その関連性は履修系統図で示している。

自己点検・評価活動は、規程に基づき定期的に行われており、毎年、自己点検・評価報告書を作成してウェブサイトで公表している。学習成果を焦点とする「学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)」、「学修到達度シート(ディプロマ・サプリメント)」を導入し、教育の質保証に取り組んでいる。

各学科の卒業認定・学位授与の方針は、学生便覧、ウェブサイト等を通して明確に示されており、定期的に点検している。各学科の教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応しており、教育課程は、体系的に編成され、教養教育、職業教育のバランスを考慮して配置し、学生が体系的に学習できるよう履修系統図で明示している。シラバスには、科目ごとの目的・目標、卒業認定・学位授与の方針との関連が明示されている。

入学者受入れの方針は、学習成果に対応し、学生募集要項、総合型選抜パンフレット、ウェブサイト等に明示されている。入学者選抜は、選考基準を設定し、公正かつ適正に実施されている。

学習成果は、建学の精神及び各学科の教育目的に基づいて知識・技能・態度の観点から定められ、具体性があり、一定期間内で獲得可能である。学習成果の獲得状況は、単位取得率、学位取得率、各種免許・資格取得状況、GPA、卒業研究、「学修到達度シート(ディプロマ・サプリメント)」、「授業評価アンケート」、「卒業時アンケート」等、量的・質的デ

ータで測定され、学生指導にも活用されている。

進路支援に関しては、卒業生の就職先を対象にした「就労状況アンケート」等を実施し、進路支援センターで結果を取りまとめ、各学科会議で報告、検討され、進路支援の改善に活用している。

学習成果の獲得に向けて、教職員は責任を果たし、施設設備及び技術的資源を有効に活用している。学習の動機付けに配慮し、基礎学力不足の学生や留学生への配慮・対応を含めて、学習支援を組織的に行い、成績評価や GPA、「学修到達度シート（ディプロマ・サプリメント）」、介護福祉士国家試験模擬試験結果等によって、獲得状況を確認している。

学生の生活支援は、学生厚生委員会と学務課が組織的に行っており、日々の指導はクラス担任が担っている。経済的支援としては、「富澤学園奨学金制度」や同窓会の「耀」奨学金等があり、就職支援は、進路支援センターを中心に、全教職員によって担われており、「卒業時アンケート」で学生から高い評価を受けている。

教員組織は、短期大学設置基準を充足している。専任教員の研究活動に関する各種規程は整備され、研究倫理を遵守するための取組みも毎年行っている。FD 活動に関する規程を整備し、FD 活動を通して授業方法の改善やスキルの向上が図られるよう、学内の関係部署と連携している。

事務職員は、学内における SD 研修や OJT を通して、専門的な職能を身に付けることができ、毎年、学外研修会に積極的に参加し、能力向上に努めている。教職員の就業に関する諸規程は整備され、規程に基づき適正に管理・運営している。

校地、校舎の面積は、短期大学設置基準を充足しており、運動場は適切な面積を有している。授業を行うための機器・備品は適正に配備され、必要に応じて修理・新規購入を行っている。学科ごとの教育課程編成・実施の方針に基づき、情報環境推進委員会、コンピュータセンター、施設管理課等が技術的資源と設備の維持、整備を行っている。遠隔授業の実施に際し、研修会を開催し、情報技術の向上をサポートしたことにより、円滑に実施された。

財務状況は、学校法人全体及び短期大学部門は過去 3 年間、経常収支が支出超過となっている。中・長期計画を策定し、実現・達成に向けて、危機意識の共有を図っている。

理事長は、建学の精神、教育目的・目標を理解し、学校法人を代表して管理・運営全般を総理している。理事会は、寄附行為に基づいて開催しており、学校法人の意思決定機関として運営されている。

学長は、学長選考規程に基づき選任されており、短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。教授会は、学校教育法に沿って開催・審議されており、適切に学長に意見を述べている。

監事は、寄附行為に基づき、学校法人の業務、財産の状況及び理事の業務執行の状況について監査を実施し、毎年度、監査報告書を作成し、定められた期限以内に理事会及び評議員会に提出している。

評議員会は、理事の定数の 2 倍を超える数の評議員をもって構成されている。

教育情報、学校法人の情報は、ウェブサイト等を通して公表・公開している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ A 建学の精神]

- 各学科とも、教育活動の中に地域貢献につながる活動を設け、学生が主体的に計画し、実践する活動に取り組んでいる。学生は、地域活動（ボランティア）の体験を通じてその後の対人援助の基礎的学習につながるよう計画しており、自身の活動と成長が地域貢献・地域交流と結びついている。これらの活動を支援する組織と定期的に点検する体制が整備されている。

[テーマ B 教育の効果]

- 従来からの成績評価や GPA に加え、令和 2 年度に「学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）」を定め、これに基づく「学修到達度シート（ディプロマ・サプリメント）」を作成した。個々の学生にとって、学習を通じた自己像を分かりやすく把握することができるという点で意欲的な取り組みであり、担任による学生への個別指導でも組織的に活用している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 現代福祉学科では、令和 2 年度に介護福祉士国家試験の合格率 100 パーセント及び専門職への就職希望者の就職率 100 パーセントを達成している。介護福祉士国家試験模擬試験を複数回実施するなど、専門職に必要な知識の確認・習得を繰り返し行う指導体系が確立されている。卒業研究の成果の発表の場として「介護福祉フォーラム」を開催していることも特徴的な取り組みである。

[テーマ B 学生支援]

- 学生への対応として基礎演習を設け、日本語表現と習熟度別の基礎数学の指導を実施し、基礎学力の習得に努めている。授業内だけでは不十分な学生に対しては、教務担当者を中心に個別指導を実施しており、入学時に基礎学力が不足している学生であっても学習成果を獲得できる体制を整えている。
- 現代福祉学科では、提携介護施設で働きながら学べる、有償インターンシップに取り組んでいる。学生自身が介護職の業務を体験するとともに、施設から送られてくる評価

票を基に教員が学生指導を実施しており、介護職としての将来像を明確化することにつながっている。

- 障がい学生支援委員会を設けており、個々の障がいに沿った対応を行っている。この対応は入学前から始まっており、入学を希望する本人及び保護者と面談して、授業受講や施設利用、学内移動に当たって短期大学が留意、改良する点を明確化している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下の事項について、改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- シラバスにおいて、15 週目の授業が期末試験になっている科目が一部あるので、改善が望まれる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ D 財的資源]

- 学校法人全体、短期大学部門とも 3 年間、経常収支が支出超過であり、余裕資金に比べて負債がやや多い。第一期経営改善計画、第二期経営改善計画に従い、着実に実行し、財務体質の改善を図る必要がある。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

[テーマ C ガバナンス]

- 理事会及び評議員会の議事録において、監事の出欠について明確に示す必要があり、改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

創立者である富澤カネ氏が提唱した女性の自立を目指した職業教育とそれを支える不変の道徳律である「敬・愛・信」の建学の精神は、今日まで受け継がれており、教育理念となっている。

「地域と Link」というキャッチフレーズを大学案内で示しており、地域・社会と連携した教育を進めている。現代福祉学科には「地域活動実践演習」、「社会福祉実践演習」の科目が組み込まれ、子ども学科では「ほいくる！こども王国」を学科企画として実施している。ボランティア活動については「地域連携・ボランティアセンター」、高大連携については「入試広報センター」が整備されている。

建学の精神に基づいて教育目的を定め学則に明示し、各学科の人材養成に関する目的、教育目標は、各学科の学科規程において明示している。学習成果は、卒業認定・学位授与の方針において示しており、学生便覧やシラバス、ウェブサイトで学内外に表明している。三つの方針は、一体的に策定しており、その関連性は履修系統図で示している。

自己点検・評価活動は、規程に基づき定期的に行っており、毎年、自己点検・評価報告書を作成して、ウェブサイトで公表している。また、自己点検・評価委員会が主導し全学的に実施しており、令和2年度には2回、各部署で点検・評価報告シートを作成した。自己点検・評価委員会では、月例の会議の際に現状を確認する「ToDo リスト」を作成し、計画的に自己点検・評価活動を推進している。

学習成果を焦点とする「学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）」、「学修到達度シート（ディプロマ・サプリメント）」を導入し、教育の質保証に取り組んでいる。また、「ステークホルダーからの意見聴取会」を開催しており、高校教員や地域の関係者から意見を聴取し、教育体系の点検・評価に活用している。こうした活動は、各委員会や学科会議、教授会で点検・評価し改善につなげている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

各学科の卒業認定・学位授与の方針は、学生便覧、ウェブサイト等を通して明確に示されており、定期的に点検している。各学科の教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応しており、教育課程は、体系的に編成されている。教育課程は、教養

科目、専門科目のバランスを考慮して配置し、学生が体系的に学習できるよう履修系統図で明示している。シラバスには科目ごとの目的・目標、卒業認定・学位授与の方針との関連が記載されている。なお、シラバスにおいて、15週目の授業が期末試験になっている科目が一部あるので、改善が望まれる。

入学者受入れの方針は、学習成果に対応し、学生募集要項、総合型選抜パンフレット、ウェブサイトにも明示されている。入学者選抜は、選考基準を設定し、公正かつ適正に実施されている。

学習成果は、建学の精神及び各学科の教育目的に基づいて知識・技能・態度の観点から定められ、具体性があり、一定期間内で獲得可能である。学習成果の獲得状況は、単位取得率、学位取得率、各種免許・資格の取得状況、GPA、卒業研究、「学修到達度シート（ディプロマ・サプリメント）」、「授業評価アンケート」、「卒業時アンケート」等、量的・質的データによって測定され、学生指導にも活用されている。また、これらのデータを一元管理する「学生カルテ」が導入され、エンrollment・マネジメント体制の確立に努めている。

令和2年度から「学修到達度シート（ディプロマ・サプリメント）」が導入されたが、学生による自己評価項目がないなど、今後の活用に向けた改善点が存在する。また、授業評価アンケートの教員コメントが任意となっており、今後の改善が期待される。

卒業生の就職先を対象とした「就労状況アンケート」等を実施し、進路支援センターで結果を取りまとめ、各学科会議で報告、検討され、進路支援の改善とともに学習成果の点検に活用されている。

学習成果の獲得に向けて、基礎学力が不足する学生への支援を組織的に行っている。日本語表現及び数学については、リメディアル教育が教育課程に組み込まれており、それだけでは不十分な学生に対しては個別指導を実施している。一方でGPA2.5以上の学生にはCAP制を外すなど、学習進度が速い学生への支援も行っている。

学生の生活支援は、学生厚生委員会と学務課が組織的に行っており、日々の指導はクラス担任が担っている。経済的支援としては、「富澤学園奨学金制度」や同窓会の「耀」奨学金があるほか、現代福祉学科には「有償インターンシップ」制度がある。

就職支援は、進路支援センターを中心に全教職員によって担われている。「卒業時アンケート」で学生から高い評価を受けている。行き届いた就職指導が行われているため高い就職率を維持している。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織は、短期大学設置基準を充足している。各学科の教育課程編成・実施の方針に基づき、専任教員と非常勤教員を配置している。教員の採用及び昇任は、教員審査規程に基づいて適切に行われている。専任教員の研究活動は、教育課程編成・実施の方針に基づいて成果を上げており、科学研究費補助金等の外部研究費も獲得している。研究活動に関する各種規程は整備されており、研究倫理を遵守するための取組みも毎年行っている。

事務職員は、関連規程に基づき整備されている。SD研修を適切に実施している。学習活動に関する動向や学校行事は、課長会議で周知され、学生一人ひとりの動向は、教務委員

会や進路支援センター会議などを通して情報共有している。

教職員の就業に関する諸規程は、学校法人の人事課が統括し整備している。また、教職員の就業に関しては、規程を基に適正に管理・運営されており、法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。

校地、校舎の面積は、短期大学設置基準を充足しており、運動場は適切な面積を有している。講義室、体育館、多目的ホール、コンピュータ演習室が確保されており、学科の特性に応じてその他の授業環境も整えている。授業を行うための機器・備品は適正に配備され、必要に応じて修理・新規購入を行っている。なお、セキュリティ対策の指針となる「情報セキュリティポリシー」を策定しているが、最終更新が平成 19 年であるため、時代に合わせた見直しが望ましい。

学科ごとの教育課程編成・実施の方針に基づき、情報環境推進委員会、コンピュータセンター、施設管理課等が技術的資源と設備の維持、整備を行っており、適切な状態を保持している。遠隔授業の実施に際し、研修会を開催し、情報技術の向上をサポートしたことにより、円滑に実施された。

財務状況は、学校法人全体と短期大学部門とも、過去 3 年間の経常収支が支出超過である。平成 30 年度決算までの学校法人は、経営改善計画（令和 2 年度から令和 4 年度）を策定している。第 2 期中長期計画（令和 2 年度から令和 6 年度）も策定し、実現・達成に向けて、危機意識の共有を図っている。経営改善計画に従い、着実に実行し、財務体質の改善を図る必要がある。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、建学の精神・教育理念、教育目的・目標を理解し、学校法人を代表して管理・運営全般を総理している。理事会は、寄附行為に基づき適正に構成され、定期的で開催されており、学校法人の意思決定機関として運営されている。

学長は、学長選考規程に基づき選任されており、短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。教授会は、学校教育法に沿って開催・審議されており、適切に学長に意見を述べている。

監事は、寄附行為に基づき、学校法人の業務、財産の状況及び理事の業務執行の状況について監査を実施し、毎会計年度監査報告書を作成し、定められた期限以内に理事会及び評議員会に報告している。

評議員会は、理事の定数の 2 倍を超える数の評議員をもって構成されており、寄附行為に基づいて運営されている。

情報公開は、教育情報、学校法人の情報をウェブサイトで公表・公開している。